

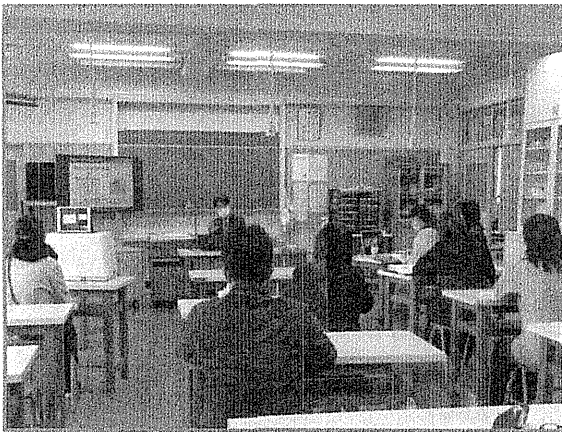
文化だより

第1回家庭教育学級を終えて

「プログラミング教育で何を学ぶのか？」～情報の活用の仕方と子どもの思考を広げるための教育～

東京富士大学 鬼木一直 教授 講演会

令和3年11月6日（土）家庭科室にて、東京富士大学の鬼木一直教授をお迎えして、令和3年度第1回家庭教育学級を開催いたしました。今回は池之上小学校家庭教育学級において初のハイブリッド型で開催し（会場参加もしくはオンライン参加の選択制）、計34名の方にご参加いただきました。



【講演内容】

鬼木教授は、東京工業大学理学部卒業、東京工業大学修士課程理工学研究科修了後、ソニー（株）に入社、世界初のハードディスク垂直記録方式の薄膜磁気ヘッド、世界初の大型液晶ディスプレイなど数多くの開発に携わり、43件もの特許を出願されました。その間、開発マネージャとして人材育成にも携われ、現在は東京富士大学経済学部の教授として、学生の指導にあたるかたわら、講演会等でも活躍されています。

情報学の専門家であり、かつ、幼児教育の研究者であり、プログラミング教育を主題に、情報が子どもに与える影響やその活用方法などについて、家庭教育の視点を入れた実践的な講演をしていただきました。

【参加された方の感想】

▶努力した過程も褒めて認めてあげる事が大事と言うお話に、はっとさせられた。情報を自分で読み解き、どう活用するかが大事だと理解した。子供がタブレットを持つことを不安に思わないように、一緒に学びたいと思う。

▶たくさんの情報が得られる今、その情報の信頼性、内容を精査する事そして活用する事が大切だと言う事、とても納得した。

▶なぜ勉強するのか？の答えが、選択肢を増やすと仰ったことにとっても共感した。これからも子どもが何をしているかよく観察しながら、口を出すのはほどほどというのを心がけたいと思った(なかなか難しいが)。

▶zoomで参加した。対面よりも資料の見やすさ、声の聞き取りやすさが優れており、次回もぜひzoomで参加したい。

▶情報の使い方、子供との共有のしかた等、分かりやすく聞くことができた。

▶中盤の情報の見せ方や活用の仕方が興味深かった。家庭でどう教えていけるかももう少し深掘りして欲しかった。

▶アプリを用いて算数のフォローなどをしていたが、不安に思っていたこともあった。子供が選択したものなので、見守り今はどんな状況かを把握していきたいと思った。

▶所用で後半少ししか視聴できなかったが、とても参考になるお話で前半も視聴したかったと思った。後日YouTubeでの録画配信などあれば更に有難い。

▶これまでは、子供が出来た時ばかり褒めていたが、これからは頑張ったら、失敗しても褒めてあげようと思った。

